

設立3年めとなる2009年は、懸案であった地域内外を結ぶワンストップ型のマネジメント拠点を岩見沢市に開設することができ、当NPOの使命である「炭鉱の記憶を手がかりにした地域の再生」に向けた取り組みにとって、画期的な年となりました。

以下、各事業ごとに、2009年の活動についてご報告します。

[活動計画に対して：○=達成 △=途上 ×=未了 ◎=途中から新規]

■出版事業

△『空知産炭地域の炭鉱遺産市民活動(仮題)』の刊行：10月の炭鉱記憶フォーラムに合わせて「炭鉱の記憶ブックレット」No.2として発刊を予定していましたが、マネジメントセンター設置業務に労力をとられたため、準備状態から先に進むことができませんでした。

×炭鉱の記憶ブックレットシリーズの次期刊行物の準備：素材発掘や執筆者探索などは継続して行っていますが、具体的な進展を見ることはできませんでした。

■炭鉱遺産事業

△iPodガイドシステムの本格運用：地域内の回遊促進のため本格運用を開始する予定でしたが、3本の素材(幌内×2本、北炭送電線×1本)は完成しているものの、マネジメントセンターの開設によるWeb再構築作業が遅れたため、課金システムの導入など新規公開方法の開発まで手がまわらず、運用に至りませんでした。

△「その先マップ」(まち歩きガイド)の作成：空知支庁の主導で赤平市住友赤平立坑周辺地区をモデルに検討を進めているフットパスルートマップと連動して、当NPOとしてもスケールの異なる2つの地区(岩見沢市美流渡万字地区、夕張市清水沢地区)でのマップ作成を、2010年3月までに完成すべく作業を進めています。

○ナショナルトラストなど炭鉱遺産の保全手法についての研究：住友赤平立坑の保存・活用について、地元団体と協議会を結成し具体的な検討に入っており、当NPOは事務局として、計画構想の取りまとめなど地域シンクタンク的な役割で参画しています。

○炭鉱の記憶の場を具体化する空間づくり：三笠市の北炭幌内鉱布引立坑跡で、10~11月にアートインスタレーション(芸術の架設展示)「幌内布引アートプロジェクト」を開催し、延べ12日の会期で約600名の入場者があるなど大きな反響を呼びました。札幌市立大学上遠野先生と学生、札幌のデザイングループSARDの協力を頂き実現したもので、元炭鉱マン、芸術関係、地元関係機関の方など、これまで関係を持てなかった新たな人々との接点を持つことができ、活動の幅が一段と広がりました。11~12月には、2会場(札幌/アートスペースCAI02、岩見沢/マネジメントセンター)で報告展で開催しました。



○学術支援事業・市民団体連携事業の催事開催：8月に、旧産炭地研究会(=JAFCOF、社会学専攻の大学教員・院生で組織する研究グループ)・早稲田大学と共催で、日英ワークショップ「日本とウェールズにおける炭鉱の記憶」を開催し、炭鉱の記憶の重要性と国境を越えた産炭地域の連帯についてアピールすることができました。また、9月には吉岡理事長がJAFCOF一行とウェールズのスウォンジー大学を訪問し、空知地域の現状について発表しました。



10月には、空知支庁と協調して、東京大学・西村幸夫先生などを招いて炭鉱の記憶に関するワークショップや見学会など連続催事を開催し、市民に向けて炭鉱の記憶の関心を高めることができました。

- 岩見沢でのワンストップ型マネジメント拠点の開設準備**：8月17日に、JR岩見沢駅前に「そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター」を開設しました。

事業推進にあたっては、本来であれば、予算の組み替えなど事業変更に伴い臨時総会を開催すべきところでしたが、年当初の活動計画に掲げた「開設準備」を前広に推し進める性格のものであり、補助事業申請や関係機関との契約・手続き業務が輻輳し時間的な余裕がないことを勘案して、定款第38条1項（予算の追加および更正）を適用し、理事会での検討を経て事業を推進しました。

特に、当初予算規模を大幅に上回る事業規模となったことから、新たな「拠点施設事業」の項目を立て経理することとしました。

■拠点施設事業

- ◎**そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター**：国の「ふるさと雇用再生特別基金事業」に基づいて、7月に空知支庁が公募した「そらち『炭鉱の記憶』活用地域ビジネス展開事業」に応募し採択されました（単年度契約で2011年度まで）。7月28日の契約締結から約半月のうちに、事務所の物件選定や賃借契約、職員の募集や採用、施設の整備、広報などを猛烈なスピードで行い、8月17日に開業することができました。

センターは、JR岩見沢駅から至近にあり、かつて炭鉱全盛期には炭鉱地帯の需要に支えられた卸売業が多く集積していた岩見沢市1条4丁目に立地する、由緒と雰囲気のある歴史的建造物（契約面積175㎡、事務所=石造木骨・1927年／石蔵倉庫=石造・1909年）を選定しました。オーナーのご厚意で、本来賃借人がすべき補修や設備改修工事を行って頂いたことで、立ち上がり資金の乏しい当NPOとしては大いに助かりました。

常勤職員として、事務局長1名・事務局長次1名・事務局員2名を採用し、それぞれ担当を定めてセンターの事業を遂行しました。また、これとは別に、NPO独自に研究員1名を准常勤として配置し、採用した職員の炭鉱や地域振興に関する知識経験の不足を補いました。

地域内外を結ぶための拠点として機能するために、特に情報の受発信と知見を集積する体制を早急に確立することを目指して活動してきました。特に、認知度を高めるための努力を行い、報道機関への情報発信、独自のホームページやブログの開設、「炭鉱×アートドキュメントプロジェクト展」のような特徴的な展示を行いました。



■学術支援事業

- アーカイブス作成のための検討や試行**：空知産炭地域を研究フィールドとするJAFCOFの取り組み支援を通じて、アーカイブス構築のための活動を展開しました。現在のところ、JAFCOFでは住友赤平鉱エリアで関係者からのインタビューなどモデル的な展開を先行させており、今後も連携をとりながら活動を進める予定です。



■市民団体連携事業

- 全国近代化遺産に携わる市民団体と交流する催事の開催**：炭鉱遺産事業の項目で先述した通り、10月に炭鉱の記憶に関する催事を開催しました。

- ×「通信員」制度による双方向の意思疎通の活性化：具体的な活動を着手することができませんでしたが、マネジメントセンターがその機能を代替する役割を担いつつあります。
- 地域内外のネットワーク強化と活動の普及啓蒙：地域内外からの求めに対して、積極的に対応しました。特に、吉岡理事長が会長を務める道央圏観光戦略会議では、「ハブ観光」（〔ハブ〕宿泊拠点となる都市-〔サテライト〕周辺の地域資源との新たな連携スタイル）というコンセプトの取り組みが構想されており、その中で炭鉱の記憶をテーマとした展開が具体化しつつあります。

■会務

- △会員に対する情報提供やサービスの強化：ニューズペーパー（No.3～No.5）、メールマガジン（No.4～No.9）、ホームページ（随時更新）によって活動情報の発信に務めました。少しずつ充実する方向ではありますが、まだ十分にできているとは言えず、特にインターネット環境にない会員に対するアクセスが対応できませんでした。
- △対外的な広報機能の高度化：容量60GB対応のサーバーへ移行しレンタルサーバーの強化は具体化しましたが、この基盤を生かしたコンテンツの充実はなお途上にあり、マネジメントセンター業務の中で展開方策を考える必要があります。
- △理事の活動の活性化：理事会活動の活性化を意図して、前回の改選で役員数を見直しましたが、まだ十分な成果をあげるまでに至りませんでした。

■活動日誌

月	日	内容	場所
1	10	松下政経塾主催フォーラム聴講	夕張
1	10	会務打合せ	夕張
1	12	第1回理事会	岩見沢
1	13	在京関係者と打合せ	東京
1	16	空知支庁炭鉱遺産ツアー	歌志内・赤平
1	22	春日井市議団へのレクチャー	札幌
1	23	道央観光戦略会議WG	札幌
1	30	空知支庁炭鉱遺産調査会議	札幌
2	3	空知支庁担当者と打合せ	札幌
2	5	道央観光戦略会議WG	札幌
2	18	空知支庁景観WG	札幌
2	18	空知支庁炭鉱遺産WG	札幌
2	18	北海道開発協会研究助成へ申請書提出	札幌
2	21	定期総会	岩見沢
2	26	産業観光フォーラム	苫小牧
2	26	ゆうぱりファンタスティック映画祭（～3/1）	夕張
3	7	炭鉱ナビ総会	札幌
3	10	道央観光戦略会議WG	札幌
3	18	アート関係者と打合せ	東京
3	19	FCRGJ関係者と打合せ	東京
3	24	道央観光戦略会議WG	札幌
3	28	空知支庁炭鉱遺産フォーラム	岩見沢
3	31	札幌法務局岩見沢支所へ登記	岩見沢
4	2	空知支庁へ地域政策総合補助金報告を提出	岩見沢
4	2	秋山生命科学振興財団へ助成金報告書を提出	札幌
4	5	第3回理事会	夕張
4	12	芦別地区炭鉱遺産巡検調査	芦別
4	13	グッズ製作打合せ	札幌
4	14	岩見沢市長との会談	岩見沢
4	18	札幌国際大（院）佐藤さん修論報告会	夕張
4	20	読売新聞で講演	札幌
4	22	道央観光戦略会議WG	札幌
4	24	北海道労働金庫社会貢献助成へ申請書提出	札幌
4	30	北海道開発協会地域活性化活動助成へ申請書提出	札幌
5	1	道央観光戦略会議WG	札幌
5	11	第1回運営委員会	岩見沢
5	19	空知支庁打合せ、岩見沢市打合せ	岩見沢
5	22	空知支庁打合せ	札幌
5	23	秋山生命科学財団報告会	札幌
5	27	グッズ開発打合せ	札幌
5	29	道央観光戦略会議WG	札幌
5	30	三笠市弥生墓地友子墓石整備	三笠
5	31	日英WS開催打合せ	赤平・美唄
6	2	日英WS開催打合せ	東京
6	8	会費整理（2008年滞納督促、2009年上期請求）	札幌
6	9	第2回運営委員会、空知支庁打合せ	札幌
6	14	NPOアルテピアッツァびばい総会出席	美唄
6	16	道央観光戦略会議委員会	札幌
6	24	NPO北海道遺産推進協議会総会出席	札幌
6	26	第3回運営委員会	赤平
6	27	三笠幌内炭鉱景観公園作業	三笠
7	1	ふるさと雇用助成金事業説明会	岩見沢
7	4	建築学会北海道支部研究発表会フォーラムで発表	札幌
7	6	近畿大学岡田准教授産業施設案内同行	室蘭
7	13	岩見沢事務所物件下見	岩見沢
7	14	ふるさと雇用助成金事業プロポーザル提出	岩見沢
7	16	FMラジオカロス番組に出演し広報	札幌
7	17	ふるさと雇用助成金事業プレゼンテーション出席	岩見沢
7	19	布引アートProject打合せ	三笠
7	21	空知若手神職の会打合せ	札幌
7	22	道央観光戦略会議説明会	滝川
7	25	線路の灯り展	三笠
7	26	岩見沢マネジメントセンター改修打合せ	岩見沢
7	27	理事会	岩見沢
7	28	「そらち『炭鉱の記憶』活用地域ビジネス展開事業」契約締結	岩見沢

8	3	茅野市民館・九富美香学芸員現地案内	三笠・美唄
8	4	赤平グループインタビュー	赤平
8	6	日英ワークショップ現地視察	三笠・赤平
8	7	日英ワークショップ	美唄
8	8	日英ワークショップ	岩見沢
8	9	日英ワークショップ現地視察	三笠・栗山他
8	9	マネジメントセンター施設整備作業開始	センター
8	10	川俣正さんワークショップ参加	三笠
8	17	マネジメントセンター開所式	センター
8	19	岩見沢マネジメントセンター改修打合せ	岩見沢
8	22	武蔵大学松本准教授・学生現地案内	三笠
8	30	東海大学水島教授・学生現地案内	三笠
9	1	空知支庁炭鉱の記憶委員会	赤平
9	3	吉岡理事長ドイツ・ウェールズ現地視察・研究会出席	独・英
9	20	布引アートProjectプレオープン	三笠
9	20	JAFCOF研究会参加	東京
9	27	マネジメントセンタースタッフ会議	センター
9	30	小林酒造訪問	栗山
10	3	布引アートProjectグラウンドオープン	三笠
10	6	北海道消防長会議で講演	岩見沢
10	8	赤平市長と会談	赤平
10	8	マネジメントセンタースタッフ会議	センター
10	13	マネジメントセンタースタッフ現地視察	夕張
10	16	産業遺産セミナー事前視察	赤平
10	17	産業遺産セミナー	岩見沢
10	18	産業遺産円卓会議・現地見学会	美唄・三笠他
10	20	空知支庁との打合せ	センター
10	28	道央観光戦略会議WG	センター
10	29	北海道若手神職の会総会で炭鉱遺産現地視察	赤平・歌志内
10	30	北海道若手神職の会総会で吉岡理事長講演	滝川
11	3	布引アートProject閉幕	三笠
11	5	マネジメントセンタースタッフ会議	センター
11	7	布引アートProject撤収作業	三笠
11	10	「炭鉱×アートドキュメントプロジェクト」展（～11/30）	センター
11	14	吉岡理事長日黒区美術館美術展でアートトーク	東京
11	17	布引報告展打合せ	札幌
11	20	第4回運営委員会	赤平
11	20	赤平立坑を残す会	赤平
11	25	秋山生命科学財団インタビュー	センター
11	27	布引報告展（札幌、～12/8）	札幌
11	28	吉岡理事長が文化資源学会で炭鉱映像解説	東京
11	28	吉岡理事長がポレボレ東中野で炭鉱映画トーク	東京
12	3	BSジャパン「ふるさと発元気プロジェクト」取材	三笠、センター
12	5	マネジメントセンタースタッフ会議	センター
12	8	酪農学園大岩井先生とツアー打合せ	江別
12	10	布引報告展（岩見沢、～12/27）	センター
12	10	室蘭観光協会と打合せ	室蘭
12	11	小樽観光協会と打合せ	小樽
12	12	空知支庁と打合せ	センター
12	24	空知支庁ガイド部会、赤平立坑を残す会	赤平
12	27	第5回運営委員会	センター
12	28	職員研修発表会	岩見沢

第2号議案 2009年度収支決算報告、監査報告

2009年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

2009年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
(現金・預金)		
現金	0	
普通預金 北洋銀行	539,745	
普通預金 北海道労働金庫	1,007	
郵便振替口座	13,000	
現金・預金小計	553,752	
(その他流動資産)		
仮払金 [菊地拓児氏発送運賃]	16,870	
流動資産合計		570,622
2 固定資産		
敷金 [マネジメントセンター]	50,000	
固定資産合計		50,000
資産合計		<u>620,622</u>
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金 [社会保険料]	95,997	
流動負債合計		95,997
2 固定負債		
固定負債合計	0	0
負債合計		95,997
正味財産		<u>524,625</u>

2009年 その他事業会計 財産目録

2009年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

該当事項なし

2009年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

2009年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
(現金・預金)		
現金	0	
普通預金 北洋銀行	539,745	
普通預金 北海道労働金庫	1,007	
郵便振替口座	13,000	
現金・預金小計	553,752	
(その他流動資産)		
仮払金	16,870	
流動資産合計		570,622
2 固定資産		
敷金	50,000	
固定資産合計		50,000
資産合計		620,622
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金	95,997	
流動負債合計		95,997
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		95,997
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産		624,670
2 当期正味財産増加額		▲ 100,045
正味財産合計		524,625
負債および正味財産		620,622

2009年 その他事業会計 貸借対照表

2009年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

該当事項なし

2009年 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書

2009年 1月 1日～2009年12月31日

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収支の部		
1 経常収支の部		
【経常収入】		
会費収入	618,500	
事業収入	1,228,570	
寄付金収入	31,000	
補助金収入	9,360,000	
助成金収入	100,000	
受取利息	616	
経常収入合計		11,338,686
【事業費支出】		
出版事業	168,720	
炭鉱遺産保全活用事業	1,532,537	
学術支援事業	473,015	
市民団体連携事業	191,048	
拠点施設運営事業	7,338,934	
事業費支出合計		9,704,254
【管理費支出】		
給料手当	1,250,000	
通信費	1,782	
旅費交通費	313,630	
会議費	55,040	
図書費	16,160	
印刷費	7,408	
租税公課	60,000	
賃借料	12,692	
支払手数料	6,295	
雑費	11,470	
管理費支出合計		1,734,477
経常収支差額		▲ 100,045
2 その他資金収支の部		
その他資金収入合計		0
敷金支出	50,000	
その他資金支出合計		50,000
その他資金収支合計		▲ 50,000
当期収支差額		▲ 150,045
前期繰越収支差額		624,670
次期繰越収支差額		474,625
II 正味財産増減の部		
1 正味財産増加の部		
敷金増加額	50,000	
正味財産増加合計		50,000
2 正味財産減少の部		
当期収支差額	150,045	
正味財産減少合計		150,045
当期正味財産増加額		▲ 100,045
前期繰越正味財産額		624,670
当期正味財産合計		524,625

2009年その他事業会計 収支計算書

2009年 1月 1日～2009年12月31日

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

該当事項なし